

令和6年度 評価・検証（概要）

資料1

1 令和6年度調査結果

(1) 取組状況調査

ア 関係課（26課）

各施策における令和6年度の実績（取組数:164）の進捗を4段階で評価 《調査時期：12月》

S：計画より進んでいる	A：計画どおり	B：遅れている	C：未実施	-：年度内算定不可
9（8）	144（146）	6（10）	0（0）	5（6）

R5取組数170、（ ）内はR5実績

- ・「計画より進んでいる」「計画どおり進んでいる」と評価した取組は全体の93%で、前年度より約3Pt増加した。
- ・「遅れている」と評価した取組の多くは、学校を対象とした講座等において年度の目標校数を達成できなかったことによるもの。学校のニーズに合わせた内容の見直しを図っていく。

イ 学校（市立小中学校144校）

各施策の実績（取組数:99）から、令和6年度に自校が実施した取組を選択 《調査時期：10月》

- ・前年度と比較して、35の取組で数値が上昇した。特に、郷土愛の醸成、豊かな心・健やかな体の育成の取組で数値の上昇が見られる。
- ・令和2年度からは63の取組で数値が上昇した。

(2) 実態把握調査

ア 調査対象

- 【教職員】 校長、教頭、主幹教諭
授業担当教諭・任期付職員・臨時的任用職員
再任用職員(フルタイム) 3,317名(94.9%)
- 【児童生徒】 グループ2の児童生徒 6,177人(90.0%)
- 【保護者】 対象児童生徒の保護者 2,531人(36.9%)
- 【地域住民】 グループ2の地域住民 390人
(学校運営協議会委員)

年度		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
調査方法		抽出	抽出	全校	抽出	抽出
児童	グループ 1 (48校)	小 4	小 5	小 6		
	グループ 2 (48校)			小 4	小 5	小 6
生徒	グループ 1 (24校)	中 1	中 2	中 3		
	グループ 2 (24校)			中 1	中 2	中 3

イ 成果指標の達成状況 (詳細は資料 2)

- ・ 26項目の成果指標のうち、11項目で目標を達成
(前年度より3増)
- ・ 昨年度より数値が上昇した指標が20項目
(前年度より14増)

2 各政策・施策の評価・検証

政策 1 自分らしさを大切にする子供を育てます

対象	設問数	肯定的回答割合 (8割以上)	
		R 6	R 2
教職員	7	5	5
児童生徒	6	2	3
保護者	2	0	0
地域住民	1	1	0

キャリア教育の浸透と定着

《 :成果、 :課題》

- 各学校で教育活動全体を通じたキャリア教育が着実に実践されている。
- 「キャリア教育で育てたい力」について、児童生徒が自覚することができる手立ての工夫、キャリア・パスポートの活用や学校だよりによる保護者への周知、学校運営協議会等での地域への情報共有が図られている。

キャリア教育を核とした人づくりの推進

- 「自分によいところがあると思う子供」の割合が前年度比で上昇。
- 「将来の夢や目標を持っている子供」「自分にはよいところがあると思う子供」の割合が全国平均より高い。

企業や地域と連携した実践的なキャリア教育の充実

- 将来の夢や目標に関する項目において、中学生の数値が低い。
- 子供たちの将来の夢や目標の設定、進路選択の後押しとなるよう、企業や地域と連携した実践的なキャリア教育をより一層充実させていくことが求められる。

政策2 夢と希望を持ち続ける子供を育てます

対象	設問数	肯定的回答割合（8割以上）	
		R 6	R 2
教員	2	2	1
児童生徒	3	1	1
保護者	2	1	1

地域住民・地元企業と連携した体験活動の実施

- コミュニティ・スクールの導入によって、学校と地域の連携・協働体制が構築されたことにより、地域人材を活用した体験活動や地元企業と連携した体験活動の充実が図られ、学校が積極的に取り組んでいる。

郷土愛の醸成

- 「自分が住んでいるまち(地域)は好きである」と回答した子供が9割以上。地域行事への参加に関する項目で、小学校約5Pt上昇。
- 教職員の「地域の魅力を発見する機会や、地域の将来を考える機会を設ける機会の設定」に関する項目で数値が前年度よりわずかに上昇。令和2年度との比較では中学校約7Pt上昇。
- コロナ禍を経て、地域行事へ参加する機会の増加や学校における地域・企業と連携した体験活動が充実し、地域に愛着をもった児童生徒が育まれている。

地域に貢献する活動の実施

- 学校の取組が令和2年度との比較で約2Pt、前年度との比較では約8Pt低下。

「やрмаいか精神」の醸成

- 「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」と回答した子供の数値は約7割

政策3 これからの時代を生き抜くための 資質・能力を育む子供を育てます

対象	設問数	肯定的回答割合（8割以上）	
		R 6	R 2
教員	19	14	13
児童生徒	20	12	9
保護者	14	10	9
地域住民	1	1	0

決めたことを最後までやり遂げる力の定着

- 教職員と保護者の支援・声掛けはもとより、子供たち自身に物事を最後までやり遂げる力が身に付いており、年齢を重ねるごとにその意識が高まっている。

外国語指導助手(A L T)との連携

- 教育活動におけるA L Tとの役割分担や効果的な活用について、どの学校にも根付いてきている。

子供のICT活用能力の向上

- 「自分の考えや思いをパソコンを使った資料や新聞などにまとめて発表することができる子供」「情報を活用した場面を振り返り、次にやってみたいことを考えることができる子供」の割合が前年度より上昇。

いじめに対する組織的な対応

- 「いじめなど困ったことがあった時に先生に相談しやすいと感じている子供」「人が困っているときに進んで助けている子供」の割合が増加。

タブレット型端末の効果的な活用

運動習慣の確立と体力の向上

政策4 一人一人の可能性を引き出し伸ばします

対象	設問数	肯定的回答割合（8割以上）	
		R6	R2
教員	1	1	1

個性を伸長する機会の充実

- 「浜松ITキッズプロジェクト」による特別課外講座を実施。
- 小学校、幼稚園へパラスポーツを含めたトップアスリートを派遣し、スポーツ教室等を実施。

教育相談支援体制の充実

- スクールカウンセラー64人、スクールソーシャルワーカー19人を配置し、深刻化・複雑化している子供や保護者の相談に対応。

不登校児童生徒への支援充実

- 校内まなびの教室を希望する児童生徒の増加に対応するため、市内50か所(前年比5教室増)に設置。

障がいのある子供への支援充実

- 発達支援学級を小学校297学級、中学校140学級(前年比17学級増)設置。
- 発達支援教室を小学校80校、中学校37校(前年比5教室増)設置。
- スクールヘルパーを小学校107人、中学校40人(前年比3人増)配置。

日本語能力に応じた支援の充実

- 日本の学校へ初めて就学する児童生徒への初期適応指導者の派遣を実施。初期日本語指導拠点校の2校目を開設。

子供の社会的自立に向けた支援

- 市長事務部局と連携して、ライフステージを通して切れ目のない支援体制の構築に向けた検討が必要。

政策5 園・学校や教職員の力を向上させます

対象	設問数	肯定的回答割合（8割以上）	
		R6	R2
教員	5	5	5
児童生徒	2	2	2
保護者	1	0	0

教員の主体的な研修姿勢

- 「校外の研修や研究会に参加した成果を教育活動に積極的に反映させている」と回答した教員が9割を超え、令和2年度から高い値を維持。研修(理論)と実践が効果的に結び付いている。

子供・保護者との信頼関係の構築

- 「先生が自分のよいところを認めてくれると思う子供」の割合が9割、「相談したときに先生は真剣に話を聞いてくれると思う子供」の割合も9割5分を超えている。
- 「学校や子供に関することを教職員に気軽に相談できる保護者」の割合は、数値が上昇している。
- 子供の姿を認め、それに応じるといった子供理解に努める教員の姿が伺える。また、その姿勢が子供や保護者の理解にもつながり、より良い信頼関係が構築されている。

校内研修と校外研修との連携

- 研修内容の共有に関する学校の取組が低下。校外研修で学んだことをどのように校内に伝えていくかという視点を持つこと、校内研修の充実のために校外研修を活用することを、教職員に奨励していくことが必要。

政策6 子供の生活や学びを支える
教育環境づくりを進めます

対象	設問数	肯定的回答割合（8割以上）	
		R 6	R 2
教員	2	2	2
保護者	1	1	0
地域住民	1	1	1

学校施設の計画的な保全

- 学校の基幹設備である自動火災報知設備、非常放送設備、給水・消火栓ポンプ、管理諸室・給食室空調設備の更新を77校で実施。
- 新校務支援システムの導入作業を実施。

学びを支える人材の充実

- 校務アシスタント、図書館補助員を全小中学校に、理科支援員を全小学校に配置。
- 児童生徒数の変動や学校の運営状況等を考慮し、99人の学習支援員や複式学級支援員・生徒指導支援員を配置。

少人数指導の充実（はままつ式30人学級編制）

- 「はままつ式30人学級編制」の該当校31校に非常勤や短時間勤務の教員を配置。

地域事情による通学等の支援

- 遠距離通学となる地域の通学支援として、通園・通学バスを49路線運行、通園・通学バス以外を利用する児童生徒に交通費を支給。

学校における働き方改革の推進

- 教職員の働きがい向上についても併せて取り組むことが必要。

政策7 家庭や地域の力を生かした取組を推進します

対象	設問数	肯定的回答割合（8割以上）	
		R 6	R 2
教員	5	4	3
児童生徒	3	2	3
保護者	7	4	4
地域住民	5	5	5

コミュニティ・スクール（CS）の効果

- 新たに4校が学校運営協議会を設置し、全ての市立小中学校、市立高等学校がコミュニティ・スクールとなった。
- 教職員・学校運営協議会委員・学校支援コーディネーター・CSディレクター等、関係者を対象とした研修会によって、制度理解と共通認識が深まり、学校のニーズに応じた学校支援活動が展開され、教育活動の充実につながっている。

保護者へのコミュニティ・スクール（CS）周知・浸透

- 保護者のCSの定義の理解に関する項目において、前年度から約7Pt上昇してはいるものの、5割未満と他の項目と比較して未だ低い状況。

学校支援活動のさらなる充実

- 具体的な支援が実施されることで、負担軽減や子供と向き合う時間の確保につながっていると認識する教職員が増えてはいるが、6割程度となっている。

3 重点施策に係る5年間の総括（静岡大学 村井准教授より）

施策1-1 自分らしい生き方の実現のための教育（キャリア教育の推進）

- ◆ 児童生徒のキャリア教育への理解が高まっただけではなく、教員や保護者のキャリア・パスポートの活用が高まったことを成果として捉えることができる。
- ◆ 成果指標の達成校の児童生徒は、未達成校よりもキャリア教育やその意義への理解が高く、キャリア・パスポートを活用した効果を実感していた。
- ◆ 児童生徒が将来の夢をもち、自分のよさに気付き、それを活かしていくためにも、キャリア・パスポートの活用をはじめとしたキャリア教育の充実をはかっていくことが重要になると考えられる。
- ◆ 保護者のキャリア教育への理解やキャリア・パスポートの活用も高まってきているが、発展途上にあるといえる。
- ◆ 教員の調査では、小学校・中学校で差のみられる項目もあり、学校種をこえた連携も重要になると考える。

施策3-1 確かな学力の育成

- ◆ 「自分で決めた時間に勉強していますか（自分で計画を立てて勉強していますか）」という成果指標は、現在の教育課程で重視されている「主体的に学習に取り組む態度」にもつながる「学習の自己調整」に関する項目である。
- ◆ 調査結果では、教員の指導や保護者の声かけがなされてる一方で、児童生徒の結果は思うようにのびない状況が続いている。
- ◆ 児童生徒の学習の自己調整につながるような有効な手立てを考え続けていく必要がある。

施策3-3 情報社会を生きる能力の育成（教育の情報化の推進）

- ◆ 児童生徒のICTの活用能力に関する質問項目は、学年があがるにつれて向上している状況がうかがえる。また、情報モラルに関する質問項目も90%をこえる高い水準を維持している。
- ◆ 教員の授業でのICTの活用頻度に関する質問でも、「ほとんど活用できていない」の割合が、令和3年度と比較して令和6年度は半減しており、授業での活用が進んだといえる。
- ◆ タブレット型端末を使う授業を分かりやすいとは感じていない児童生徒が1割程度いる状況も明らかになっていることから、これからは、頻度だけでなく、使う場面や使い方といった質の面も重要になると考えられる。

施策7-2 地域との連携・協働の推進（コミュニティ・スクールの推進）

- ◆ 「学校は、地域の人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っている」の地域からの回答は向上してきており、目標値の95%を上回っている。
- ◆ 教員の調査結果からは、保護者や地域住民と学校運営をしているという教員の意識が徐々に高まってきていることがうかがえるが、学校種によって差がみられる。
- ◆ 保護者の調査結果からは、「コミュニティ・スクール」という概念が保護者の間にも浸透しつつある状況がうかがえるが、50%には達していなかった。
- ◆ 「コミュニティ・スクール」が定着し、保護者や地域の理解が進みつつある状況だが、今後も引き続き理解を広めていく必要がある。

【参考】重点施策に関する調査結果の分析（静岡大学 村井准教授の資料から抜粋）

施策1-1 自分らしい生き方の実現のための教育（キャリア教育の推進）

()内はR5達成校数

《成果指標》

将来の夢を持っている子供の割合 90%

【達成】小：18校(17校) 中：0校(0校)

自分にはよいところがあると思う子供の割合 85%

【達成】小：18校(9校) 中：4校(0校)

自分のよいところを生かしながら活動している子供の割合 80%

【達成】小：26校(17校) 中：6校(1校)

経年比較	達成校と未達成校の比較（達成校と未達成校で有意な差がみられた項目）
<p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ グループ1、グループ2どちらも学年が上がるにつれて数値が下がる傾向 ➢ グループ1は中2から中3で数値が下がっているが、グループ2は中2から中3で数値が若干上昇 <p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 小中学生ともにR5と比較して大きく数値が跳ね上がり、グループ1の同一学年よりも数値が高い <p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 小中学生ともにR5と比較して数値が上昇し、グループ1の同一学年よりも数値が高い 	<p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 【小学生】 キャリア教育、挑戦・粘り強さ、他者（友達・地域・先生・家族）との関わり 【小保護者】 キャリア・パスポート 【小教職員】 地域・保護者との関わり <p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 【小中学生】 キャリア教育、挑戦・粘り強さ、他者（友達・地域・先生・家族）との関わり、グローバル化 【小保護者】 他者（子供・地域・教職員）との関わり 【小教職員】 グローバル化 【中保護者】 キャリア教育 【中教職員】 地域、保護者との関わり <p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 【小学生】 キャリア教育、挑戦・粘り強さ、他者（友達・地域・先生・家族）との関わり、グローバル化、スポーツ 【小保護者】 地域との関わり、スポーツ 【小教職員】 グローバル化 【中学生】 キャリア教育、挑戦・粘り強さ、他者（友達・地域・先生・家族）との関わり、グローバル化 【中保護者】 地域との関わり 【中教職員】 キャリア教育、地域・保護者との関わり

施策3-1 確かな学力の育成

()内はR5達成校数

《成果指標》

自分で計画を立てて勉強している子供の割合 75%

【達成】小：8校(10校) 中：0校(0校)

自分で決めたことは最後までやり遂げるようにしている子供の割合 90%

【達成】小：19校(14校) 中：3校(3校)

経年比較	達成校と未達成校の比較（達成校と未達成校で有意な差がみられた項目）
<p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 小中学校ともにR4からR5で数値が大きく下がる傾向が見られたが、R5からR6は数値が上昇 ➢ 中学校は大幅(約9Pt)上昇し、グループ1の同一学年より数値が高い数値 <p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ グループ1、グループ2どちらも学年が上がるにつれて数値が上昇する傾向 ➢ 小学校では一貫してグループ2の方が数値が高い 	<p>《成果指標》</p> <p>【小学生】 キャリア教育、夢や目標の設定、自分のよさの自覚、挑戦、粘り強さ、考え深め広げる、グローバル化 など</p> <p>【小教職員】 地域・保護者との関わり</p> <p>《成果指標》</p> <p>【小学生】 キャリア教育、夢や目標の設定、自分のよさの自覚、学習習慣、挑戦、粘り強さ、考えを深め広げる、地域での活動、先生・家族・地域との関わり など</p> <p>【小保護者】 キャリア・パスポート</p> <p>【中学生】 キャリア教育、粘り強さ、地域での活動、スポーツ</p> <p>【中教職員】 情報活用能力の育成</p>

施策3-3 情報社会を生きる能力の育成（教育の情報化の推進）

()内はR5達成校数

《成果指標》

自分の考えや思いを、パソコンを使った資料や新聞などにまとめ発表することができる子供の割合 70%

【達成】小：39校(37校) 中：22校(21校)

インターネットやゲームをするときの（情報をやりとりするときの）ルールやマナーを守ることができる子供の割合 100%

【達成】小：7校(6校) 中：5校(3校)

経年比較	達成校と未達成校の比較（達成校と未達成校で有意な差がみられた項目）
<p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ グループ1、グループ2どちらも学年が上がるにつれて数値が上昇する傾向 ➢ 中学校は約5Pt上昇し、グループ1の同一学年より数値が高い <p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ グループ1、グループ2どちらも学年が上がるにつれて数値が上昇する傾向 ➢ 小学校、中学校ともにグループ1の同一学年より数値が高い 	<p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 【小学生】 夢や目標の設定、自分のよさの自覚、学習習慣、挑戦、粘り強さ、考えを深め広げる、グローバル化、情報活用能力、先生・家族との関わり など 【小保護者】 キャリア・パスポート、子供への励まし 【中学生】 キャリア教育、情報活用能力、読書習慣 など 【中保護者】 教職員との関わり 【中教職員】 情報活用能力の育成、地域人材の活用 <p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 【小学生】 キャリア教育、学習習慣、地域との関わり 【小保護者】 キャリア教育、地域との関わり 【小教職員】 キャリア教育、学習習慣、地域・保護者との関わり、情報活用能力の育成 など 【中学生】 情報活用能力、地域との関わり、運動習慣 【中保護者】 キャリア教育、地域との関わり 【中教職員】 地域・保護者との関わり

施策7-2 地域との連携・協働の推進（コミュニティ・スクールの推進）

（ ）内はR5達成校数

《成果指標》

学校は、地域の人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思う地域住民の割合 95%
 【達成】小：40校(23校) 中：15校(14校)

ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供の教育に関わる人が多いと思う地域住民の割合 80%
 【達成】小：38校(46校) 中：12校(13校)

経年比較	達成校と未達成校の比較（達成校と未達成校で有意な差がみられた項目）
<p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 小中学校ともに、年度が進むにつれて数値が上昇 ➤ どの年度においても小学校のほうが中学校より数値が高い <p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 数値の上下はあるが、いずれの年度も目標値を達成 	<p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 【小学生】 キャリア教育、自分のよさの自覚、挑戦、粘り強さ、グローバル化、先生・家族・地域との関わり など 【小保護者】 いじめ防止、災害対策、地域との関わり 【小教職員】 災害・事故対策、保護者・地域との関わり 【中学生】 キャリア教育、地域での活動 【中保護者】 地域・教職員との関わり <p>《成果指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 【小学生】 地域との関わり 【小保護者】 キャリア・パスポート、地域・教職員との関わり 【小教職員】 地域との関わり 【中保護者】 キャリア教育、地域との関わり